

もの言う牧師のエッセー… 第5話

「クリスマス狂想曲」

今年もいよいよクリスマスシーズンが始まった。と同時にクリスマス商戦の火蓋が切って落とされたわけだ。不景気の続くこのご時勢、何せアメリカ小売業国内年間売上高の約4割を叩き出すと言われるほどの歳末シーズンである。サンクスギビング明けの“ブラックフライデー”、“サイバーマンデー”を皮切りに年明けまで延々と“戦い”は続く。

先頭は今年も“小売の巨人”ウォルマートだ。サンクスギビングデー当日のPM10時からオープンするそう。何のことはない、これでは“ブラック・サズデー”ではないか。“ターゲット”、“ベスト・バイ”、“コールズ”、“メーシーズ”がこれに続き金曜日午前零時オープンで“参戦”する。小売業の話以外にもクリスマスと言えばケーキを始め、パーティ・番組、映画、デコレーション等多岐にわたって盛り沢山だ。

が、しかしである。一体これらの“騒ぎ”には何か意味があるのだろうか？今さらではあるがクリスマスの意味はクリス(Christ)のマス(礼拝)という意味だ。従ってクリスマスに関する様々な“騒ぎ”はクリスマスとは無関係なのである。そもそも聖書にはキリストがどこで生まれて何をするかと言う預言が2700年前、つまりキリストの生まれる700年前に書かれていたが、それが時至って成就したのがクリスマスなのである。世の中に偉人数あれど、“予告”されて生まれてきたのは彼しかいない。その目的はズバリ神による人類への“救いのプレゼント”である。聖書には

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

ヨハネの福音書 3章 16節

とある。今年のクリスマスこそ本当のクリスマス(キリスト礼拝)をしよう。そして救いを得よう。あなたは自分がいつ死ぬのか知らないのだから。 2011/11/17

